

そうした付加価値を生んでいることも、忘れてはならない。だが、こうした屁理屈を考えてみても、何の役にも立たなさそうな人文・社会学系の学部など国立大学から減らせという、監督官庁の大号令に抗することはできないだろう。人文社会学系の学術機関が生み出す多様な価値に広く目配せできる政治家や官僚は、日本の学術行政からはいなくなってしまうだろうだ。

(国際日本文化研究センター情報管理施設長)

財務運用係の仕事

須田秀美・亀井祐子

私達は、管理部総務課財務運用係に所属しています。財務運用係は、旅費担当と物品担当に分かれており、私達物品担当は、物品の購入・印刷物の発注・役務、財務会計処理などを行っています。私達の仕事を簡潔にお伝えしようとあれこれ頭を巡らせてはみたものの、これといったピッタリの一言が見つかりません…。人と接することも多い仕事なので、特別

大きな力にはなれなくとも、先生方や事務職員の方々の「縁の下の力持ち」的な存在になりたいという気持ちで、毎日元気に上司の指示のもと仕事をするようにつとめています。

日文研では、書籍以外の購入・役務は財務運用係を通しての発注となり、教員発注は認められていません。先生方や各課・係から購入の依頼をうけ、物品・役務等の購入の段取り、見積・発注・納品までをするのが、主な仕事です。物品の購入と一言で言っても商品の選定、見積・発注・納品、会計処理を終えるまでに、半月から1ヶ月、時には数ヶ月の日数を要します。担当者と打ち合わせをしたり、いろいろな業者の方とお会いしたり、電話やメールでの打ち合わせや交渉、時には情報を教えていただきながら仕事を進めていきます。商品や金額、数量に間違いはないか、在庫はあるか？納期は大丈夫か等、もう数え切れないほど同じ事を繰り返しているのに、未だに緊張が走るのです。中にはとても高価だったり、珍しかったり、検品するのも恐れおおいと思う物もあり、無事納品を確認したときには、いつも以上に安堵感が広がります。

依頼をしようか、迷ってらっしゃる時に相談を受けることもあります。もちろんお役に立てる時、立てない時もありま

すが、話を伺い、相手の意向になるべく添えるよう心がけています。稀に私達のお手伝いで解決したりすると、つい台車を押す足取りも軽くなったり…。

「プリンターに紙が詰まった」といった相談もあります。プリンターの紙詰まりの頻度が増すのは、梅雨時です。ティッシュやピンセット・汚れ落とし・裏紙等を持参し、身体を変な角度に曲げながら神経を集中させて機械を傷付けないように慎重に、詰まった紙を取り除き、手をまっ黒にしながら汚れを掃除します。時にはうっかり顔をさわってしまい、小さな子供のようになつていたり。他にも「ゴミの出し方」、「シミ取り」、「ゴミの回収」、「害虫駆除剤の散布」等、多岐にわたる対応します。時に子育ての知恵や介護の経験が生きることもあり、何が役にたつかわからないものです。

また故障等があれば状況を確認し、修理を依頼する前に再度検証等し、本当に修理が必要か？何とか私たちで対処することができないか？等を確認し、いろいろな面での経費削減を心がけております。

普段の生活でも、日々アンテナを張っています。チラシや新聞等で商品情報や金額の相場をみておいたり、お店にいったときには現物を実際にみてみたり、時には業者の方から情

報を収集することも。どれぐらい役に立つかはわかりませんが、少しでもスムーズな対応ができるように、私生活でも心がけるようにしています。

購入等が決まれば、会計システム処理をして決裁をとり、納品されれば支払いに向け、高価な物品については登録等の処理をしたりします。日々の事務作業においても、一番に規則に忠実に正確に、また、効率よく作業を進めるようにしています。年末から年度末あたりには、業務量もかなりふえ、予算管理や購入の作業では時には、予算が足りない！納期に間に合わない！という夢をみて目が覚め、「夢で良かった」なんてこともあります。また、海外から研究にこられている方のための宿泊施設である日文研ハウス関係の業務もあり、備品等の管理、光熱水量の計算、請求等の業務もしています。日文研ハウスは生活するスペースのため、一般家庭と同様に、冷蔵庫、洗濯機等などの調子が悪くなったりすると、大至急対応しなければならぬことが多く、また共有スペースなどで、思いがけないことが起こったりします。ドラえもののなんでもポケットが欲しいなと思うことも。

私たちの仕事は、そうじや片付け、重たいものを運んだり、と、地味で紙の上で表せないことも多くあり、また、予定外

の業務も多く、急いでしなければならぬことがたくさんあります。その中で、少しでも効率よく、表面上だけでなくみんなにとっていい形になるよう常に心がけて、向上心をもって楽しく仕事をさせていただいております。これと違って特別なことはできない私達ですが、人とのつながりを大切に、日々どんな仕事でもやる気をもってすれば、相手も気持ちよく仕事ができると思います。教員とは、パイプのようには太く、時には細く、必要に応じた対応で研究のお手伝いできればと考えています。

日文研は自然に恵まれたところにあり、めまぐるしい毎日の中でも、ふと美しい景色に癒やされ、木々に元気をもらい、素敵な環境でお仕事できる喜びを感じています。先生方、事務職員の皆様、いつもご協力いただき、本当にありがとうございます。

大きな相談から小さな相談まで、ご遠慮なく財務運用係まで。

(国際日本文化研究センター管理部総務課
財務グループ財務運用係パートタイム職員)